

剣道少年男女V

女子初、男子45年ぶり

特別国民体育大会「燃ゆる感動 かごしま国体」(鹿児島国体)は8日、各地で12競技があった。鹿児島県勢は剣道の少年女子が初めての頂点に立ち、少年男子は45年ぶり2度目の優勝を果たした。空手道は成年女子組手個人の鈴木真弥(県スポーツ協会・クラフトホームズ)、成年男子組手個人重畳級の山下慶人(帝京大)、少年男子形は荒川大悟(鹿屋高)が2位だった。トリアスロン成年男子の佐藤錬(医療法人玉昌会)と成年女子の中山彩理香(県スポーツ協会・新堀自動車)は2位に入り、同種目として県勢初の表彰台を飾った。



ダブル優勝を果たし笑顔みせる剣道少年男女のメンバー
—8日、霧島市牧園アリーナ(税所陸郎撮影)

剣道の少年女子は準決勝、決勝をいずれも2勝2敗1分けとなり本数差で制した。少年男子は準決勝で強豪の熊本に競り勝ち、決勝は大分を2-0で下した。

ハイライト

「武の国」の底力を大舞台で見せた。少年男子の鹿児島は準決勝で熊本を、決勝で大分を撃破。強豪・九州勢の厚い壁を破り、45年ぶりの優勝をたぐり寄せた。萩雅彦監督(鹿児島商高教)は「全員が一歩も引かず、真っ向勝負を見せてくれた」と選手をたたえた。

鹿商や鹿児島実、伊集院の主力5人が結束して戦った。中でも、勝利への強い執念を見せたのが3年生の3人だ。中堅の今



少年男子

△少年男子1回戦	大分	2-1	福岡	2-1	熊本	3-0	鹿児島	2-1	鹿屋	3-1	大分	2-1	福岡	2-1	熊本	3-0	鹿児島	2-1	鹿屋	3-1
△少年男子準決勝	鹿児島	2-0	熊本	3-0	鹿児島	2-1	鹿屋	3-1	大分	2-1	福岡	2-1	熊本	3-0	鹿児島	2-1	鹿屋	3-1	大分	2-1
△少年男子3位決定戦	鹿児島	2-0	熊本	3-0	鹿児島	2-1	鹿屋	3-1	大分	2-1	福岡	2-1	熊本	3-0	鹿児島	2-1	鹿屋	3-1	大分	2-1

西海月(鹿商高)は準決勝で心不乱に突き進み、決死のコテと切れのあるメンを決め、勢い呼び込んだ。大将の今村爽(同)は、冷静かつ力強い剣さばきで初戦から決勝まで全て2本勝ちと無敵。要所で得意のドウを奪った次鋒・川内颯真(伊集院高)も活躍。決勝でも粘り強く戦い、「とにかく声を出し、仲間になく意識で戦った」と振り返った。

地元国体での優勝は、鹿児島にとつての悲願だった。十数年がかりで取り組んだ強化は、新

型コロナの影響で足踏み状態。昨年の栃木国体は、九州プロック予選敗退に終わり国体に出場さえできなかった。試練を越えてつかんだ頂点を喜び、今西は言った。「みんなの期待に応えようと死ぬ気で戦った」(常深さゆり)

10/9(A)
南の本